

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

山陽新聞の滴一滴さんのコラムに「寒」という文字は、家の中にいる人が寒さに耐えかねて卓で体を覆っている形を表している

「寒」について記述。2010年以降、国内で低体温症による凍死者がほぼ毎年、千人以上出ていて、しかも搬送される人の7割以上が屋内にいながら発病しているとの記事を紹介した。

に親切に高齢者に接するためにはどうあるべきか参考になれば、「シニア世代の新しい生き方を提唱する新老人の会」の会員で、眼科医として高齢の患者10万人以上を診察してきた経験の持主の平松

なにか、そしてどうすれば良いのか。どうしてもらえればいいのか、自分の当たり前を考えさせられる内容だった。書き手が医師であり、高齢者の行動を分析した事例を列挙。「老人がなぜ赤信

分析。運転の際には、老人の事前知識として理解すべきだし、信号機自体の構造も改良して行く必要があるのだろう。

「高音量のテレビ視聴や話した内容が伝わらない」では、60歳以上になると、高い声や若い女性の声は、1・5倍以上の音量がないと聞こえない事。耳が悪いので、声が大きくなってしまう事を理解している」と、正面から、低い声で、ゆっくりと話をなべてはと再認識する。難聴は認知症になりやすいのでマグネシウムの摂取とビタミンCやビタミンEの栄養素が大切な事。「料理に醤油をかけすぎると、亜鉛が足りていない時は味覚が悪くなり、塩分は若い頃の12倍使わないと、同じ味に感じない。など多岐にわたる「老化の正体」実例は、高齢者

の理解に役立つのはもちろんだが、自分自身が高齢になった時の対処法としても、勉強になった著書でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

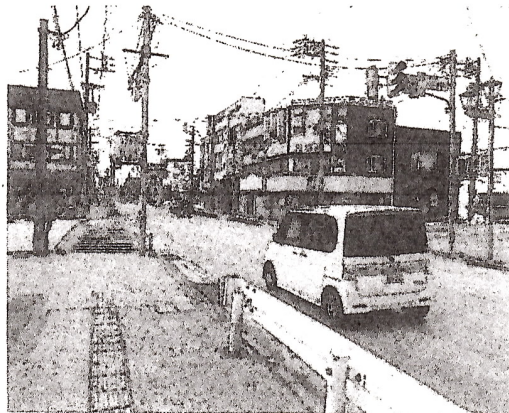
## 豊かな高齢化社会を迎えるには「老人」を知る事が大切だ

「避けられない超高齢化社会で、豊かな地域社会でありたいと考えている人は多いはずだ。だが、「お客様第一主義」がモットーの店舗で従業員の対応がどうあるべきか。「住民のために」と行われる行政手法がどうあるべきなのか。一生懸命

類さんの著書「老人の取扱説明書」を購読する。高齢期を迎える私にとっては、「取り扱ワレ説明書」の気分だ。無意識にやっている事のうちの何が迷惑がられているのか、なぜ迷惑

号を平気で渡すのか」では、腰が下がり、腰が曲がっているから、信号機がある上の方が良く見えない。転びやすいので足元ばかり見ている。日本の信号機は高齢者の歩行スピードでは渡り切れないと

現在でも、渋滞の原因となる信号待時間、高齢化社会では新規の自動車優先道路の整備が求められている



現在でも、渋滞の原因となる信号待時間、高齢化社会では新規の自動車優先道路の整備が求められている